

さようなら原発 1000万人署名

先月、さようなら原発 1000 万人署名に取り組みました。全国の生活クラブでも取り組んで、全体で 8,370 筆、滋賀からは 225 筆となりました。さようなら原発 1000 万人署名実行委員会へまとめて送りました。わたしたちは署名など様々な活動に取り組み、また、生活クラブエナジーの利用者を増やし、原発のない社会づくりの取組みを続けていきます。

☆さざなみ ぎもん・お悩みズバツと解決コーナー☆

Q : 袋で冷凍になっている鶏肉を解凍すると、ドリップが漏れます。袋に穴が開いているのでしょうか。

A : ~専務に聞きました~

生活クラブは、「無添加追求フィルム」という袋で消費材を届けています。

この特徴を紹介します。(冊子「無添加追求フィルムの価値」から抜粋)

「食品の包材に使われているプラスチックフィルムには、酸化防止剤、安定剤、滑材など、様々な添加物が使われています。欧米では、「食品包材に使用されている添加物は溶出し、食品を汚染する」という認識に立ち、法令によって食品包材に使用できる添加物を定めています。ところが日本では、包材業界の自主基準があるだけで、使用されている添加物も情報公開もされていません。せっかく無添加で作った生活クラブ消費材が、包材の添加物によって汚染されてしまったら極めて残念です。そこで可能な限り添加物を使わないことを目指して開発したのが「無添加追求フィルム」です。」

添加物を使わないでつくることができるのが、唯一「低密度ポリエチレン」だけなので、無添加追求フィルムにはこれを使用し、包材表記は「ポリエチレン」となっています。上記の特徴の他、燃やした時にダイオキシンを発生させないという特徴もあります。

一般では、冷凍したときや気温の高い状態で運搬するとき等を想定し、色々な添加物を用いて、伸縮性（柔軟性）のある袋を作ります。冷凍しても柔軟性のある袋が出来上がります。

ポリエチレンは、冷凍などの低い温度の場合、この柔軟性があまりなく、堅くなってしまいます。そのため、少しの衝撃や突起物があたった場合などには、破れやすく裂けやすい状態になります。

『「無添加追求フィルムは無農薬野菜と同じ」と、フィルム・メーカーは語ります。作るのに大変な苦労が必要です。見てくれが悪ければ廃棄しなければならないこともあります。ところがその価値を理解してくれる消費者は少ないのが現状です。

原料にはグレードの高いものを使用し、フィルムの製造時には汚れが付きやすいので、こまめに掃除をしなければなりません。フィルムを張り合わせる時には、シワやタルミ、ジェルや焦げが発生しないように注意が必要ですし、検査した後、廃棄しなければならないこともあります。食品を充填し、袋の口を張り合わせる時にも、慎重に機械の温度を調整することが必要です。一般のフィルムのように様々な添加物を使えば、もっと簡単に製造し、作業も楽なのですが、無添加ならではの苦労がたくさんあるのです。

無添加追求フィルムを使うことの苦労と価値を、ぜひ組合員のみなさんに知って欲しくてこの冊子をつくりました。たかがビニール袋と思わずに、ぜひとも裏面の表示を確認し、生産者の苦労を想像してみてください』(同冊子抜粋)

生産者の熱い想いとわたしたち組合員の想いがつくりあげている袋です。

例えば、「鶏ぶつぎり」は骨がついている消費材です。この骨が運んでいる間に袋にあたると、外からは分からない小さな穴が開くことがあります(完全に破けているとわかるのですが)。そのまま解凍すると、鶏肉のドリップがこぼれだしてとんでもない状態になります。**骨がついている、とんがっているものが入っている**というような消費材を解凍するときは、袋には穴が開いているかもしれない、肉汁が出てくるかもしれないと考えて、お皿やボールの上で解凍すると安心です。



9月 スケジュール案内



日	月	火	水	木	金	土
					9/1	2
3	4	5 大津特別学区会	6	7	8	9
10	11 DVD 上映会 (NO-NUKES 委員会)	12 ピオサボ料理教室 (消費委員会)	13	14	15 ローズタウン合同学区会 湖南特別学区会	16
17	18	19 湖東学区会 和邇学区会 NON-GM 委員会	20 堅田学区会 消費委員会	21	22 北野学区会	23
24	25 理事会	26	27 NO-NUKES 委員会	28 仰木学区会	29	30

編集後記

〇っとも素敵なお話を耳にしました。友人の知り合いの夫婦が、脱サラして農家を始めたようですが、
 2人の夢は、「自分たちで作った無農薬のお米を食べること」。毎日せせと糸の世話をしていた
 ある日のこと、近くの田んぼでカメシの馬区除のため「ラジコンヘリコ」
 農薬をまき、カメシは夫婦の田んぼに逃げてきてしまいました。2人が
 様子を見ていると、カメシはお米に口先をストローのように突っ込み、
 チューチューと吸っていたそうです。翌朝、田んぼが「なぜかキラキラと
 光輝いています。よく見ると、そこにはたくさんの中蜘蛛の巣が!!
 逃げたカメシを、片っ端から糸で巻き巻き捕まえているではありませんか。その次の日、今度はカエルが「中蜘蛛を食べに来ま
 した。その次の日は、ヘビがカエルを。田んぼには「青争病」が
 戻り、2人は「安心」。しかし、これだけではありませんでした。
 農薬も、肥料も、除草剤も使っていない田んぼには、ひえが
 生えてきたのです。2人が「またまた様子を見ていると、ある日スズメの
 大群羊がやって来て、なんとひえだけを食べてお米には全く見向きもせず、飛び去っていったそうです。
 その後、夫婦は無事にお米を4割穫ることができたのです。何という見事な命のリレー
 まるで「日本昔ばなし」に出てきそうなストーリーです。自然・生きもの・いのち・営み…何だか
 様々なことが、そういう風にできている(by 糸井 重里さん)んだなあとしみじみ感じました。
 生活クラブの美味しくて安全なお米を作っている生産者の方々も、こんなエピソードをたくさんお持ち
 かもしれませんね。いつか本誌があれば、聞かせてみたいなあ。 2019. 8 mayu



☆生活クラブに関する疑問や、子育てに関する悩み事などを募集しています☆

〆切り取って、配送担当にお渡しください〆

さざなみ ぎもん・お悩みズバツと解決コーナー♪

今回は書くスペースがありません。メモなど、書いていただいたものにこの紙をつけて出してください。

お名前 ()

さざなみにお名前を掲載してよろしいですか? (はい ・ いいえ)